

サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい

人生100年時代の個人M&A入門

File.3 起業は、会社をすることではない

文 三戸 政和 text by Masakazu Mito

「会社を作りたいんだよね」とか「独立したいんだよね」と安易に口にする人がいて、「何をするの?」と聞けば、「それはまだ、いろいろ考えているんだけど……」と言いよとむことがよくあります。私は、その人が友達ならば、断じて言います。「あなたは絶対に会社を作つてはいけない」と。

2006年に法律が改正され、1円起業ができるようになったり、学生ベンチャーがもてはやされるようになりました。また、「スタートアップ」という格好い呼び名が浸透したこともあり、社会も知らない学生でも成功できるんだから、ビジネスを経験した俺なら起業できる、とでもいうような風潮がそこかしこで見受けられます。

どうも世間では、「起業」が軽く見られているように思えてなりません。

起業とは、会社を作ることではありません。事業を作ることです。会社を作ることには誰でもできます。ネットで「会社作り方」と検索し、その通りに手続きするだけです。しかし、今すでにあるサービスや商品を自らの手で販売していくだけでも大変なのに、まして、世にないサー

ビスや商品を創造し、市場に浸透させていくベンチャービジネスを軌道に乗せるのは、並大抵のことではありません。この点を誤解しないでいただきたいのです。

会社というのは、設立した瞬間から「出血」が始まります。出血とはもちろん、お金の支出のこと。まるで動脈にナイフを突き立てたかのように、どんどん出て行きます。家賃、光熱費、交通費や宿泊費など、自分で払うとなると「バカにならない金額」であることにすぐ気づくでしょう。サラリーマンであれば当然支給されていた費用を自分で払ったとき、その重みを感じます。自分で会社を始めると、タクシーなんて恐ろしくて乗れません。そして、最も重いのが人件費です。誰かを一人雇った瞬間に、毎月数十万円という経費が出て行きます。数人雇えば、手持ちの1000万円ぐらいは、あっという間に消えます。

そして、甘く考えがちなのは自分自身の人件費です。「一年ぐらい収入がなくても生活できる程度のお金は持っている

」と言って起業する人がいます。甘すぎます。では、一年経っても収入がなかったらどうなるのでしょうか。一文無しです。文字通り、食えることができなくなるのです。



「サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい 人生100年時代の個人M&A入門」 (講談社+α新書) 定価907円(税込)

Profile

日本最大級のベンチャーキャピタル(運用総額1,500億円)にて、国内外の投資先に経営参画しながら、成長戦略、株式公開支援、M&A戦略、企業再生戦略などを行う。その後、兵庫県議会議員として、行政改革に着手後、地元の加古川市長選挙出馬のため議員辞職し出馬するも、落選。ロンドンにて神戸ビーフのプロモーション会社 Tajimaya UK の立上げを行い、従業員へ事業引き継ぎ。中小企業むけの事業承継・事業再生専門の投資ファンドである日本創生投資を創業。

